

授業の玉手箱

夫 明美

仕事柄、各地の中学校や高校を訪問して授業や講義をさせていただく機会に多く恵まれています。多くの場合は「1 回完結型」の授業をします。先日は、同じ高校の 1 年生、2 年生、英語科目ご担当の先生方に向けて、3 時間連続型の授業をさせていただきました。いずれもダイアログプレイやスピーチと言う音声を中心に実践を交えたお話をし、実際のデモンストレーションを行いました。私にとって非常に新鮮なことがいくつかありました。

一つ目は、学生と共に授業を受けてくださった先生方が、引き続き行った「教員向け」の時間中に、日頃の授業や英語指導についての疑問や困難を感じておられる点を率直に述べてくださった点です。1 時間完結型ですと、どうしても授業後は短時間のやり取りにとどまってしまう、深いところまでお話ができません。また、複数の学校から先生方が集まっておられる場所ですと、「全員が共有している教材、学生、指導法」の情報が存在せず、やはり、各先生（または各学級、各学校）が感じておられる問題点について具体的にお話しすることも難しいです。先生方が胸を開いてお話してくださったおかげで、私自身が大学での英語教育で大切にしたい点を再認識する機会にもなりましたし、現場の先生方のヒントになるような材料を準備するあらたな「やる気スイッチ」を入れていただきました。

二つ目は、私自身が 3 グループ間に一連のテーマ性をもたせて（全てご出席くださった先生方を除いては）1 時間ごとに異なるオーディエンスに向けて講義を行ったことです。学年による進度やテーマを考慮しながら資料を準備することは、骨の折れる部分もありましたが、非常にやりがいのあるものでした。

このような新しい経験から刺激を受け、以下は若干手前味噌になりますが、8 月の免許更新講座の内容の一部を紹介いたします。受講者の皆さまに同じ教材を使用していただきながら、「形式と意味、それにふさわしいコミュニケーションスタイルを表す発音」について取り上げます。音素という個別の発音からだんだんと枠組みを広げて、「情報のギャップ」や「対比」などをイントネーションや音の強弱で示すという点まで実技も含めて扱う予定です。

書籍紹介

『日本人に相応しい英語教育』

成田一（大阪大学名誉教授）（著）、松拍社（2013）1500 円、196 ページ



表紙にある副題が「文科行政に振り回されず 生徒に責任を持つ」とあり、帯には「英語での授業」「TOEFL 入試」が英語教育を壊す！続けて、言語構造的にハンディが大きい英語には日本人に合った教育方法がある！と勇ましい。

ページをめくっての、はじめの中でも、「文科省は小学英語についても誤りをおかしている。“中学の基本英語の前倒しを禁止し、表現手段を奪いながら、コミュニケーション力を育てる。”という矛盾を孕む、お遊びの英語活動を英語が苦手な担任に委ね、浅薄な国際理解という理念を掲げて、保護者を欺いている」と小気味よい。

本書の内容は「言語差を踏まえた外国語教育」、「言語習得理論について」「リメディアル教育」「どう英語を教えるべきか？」「翻訳と通訳の違い」等と幅広く 11 章構成となっており、全体を通して、理論的かつクリティカルな視線から論が展開されている。近年の日本の英語教育に対する様々な提言や答申を、そのことの是非が十分に論じられることなく施策化されることに？？疑問を抱かれる方にお勧めの一冊である。

（中垣芳隆）

第 30 回勉強会「英語の教え方教室」簡易報告

平成 26 年 6 月 14 日（土）14:00 ~ 17:00

「私の授業紹介と忍者学（Ninjalogy）」

大阪府立枚方津田高等学校 池田 裕 教諭



今回は池田先生を迎えて、「授業に英語の諺（ことわざ）を」と「忍者学」について話をさせていただきました。BS の NHK World News 出演時のビデオを見ながら皆、池田先生の話術に引きこまれました。まず授業報告として、英語の諺を 5 分間程度の帯授業として年間 100 を教えていると話された。最初にベスト 20 を紹介され、Time is money. 時は金なりを生徒に時間厳守の大切さを伝えるためにトップに教えるとのことだった。

報告のあと、授業において英語のことわざを紹介したり覚えさせたりすることはどのような意味を持つのかを参加者で話し合ってもらった。

- ・英語、英文を覚えることになり良いことではないか。
- ・英語のことわざを取り上げることが英語教育に効果的かどうかかわからない。ただ、身体を動かすウォーミングアップの時に発声させるのに使っている。その方が自然に覚えるようだ。
- ・文法指導の際に身近な出来事や活動を例文にするのもよいが、例文として可能なことわざを取り上げて使うことが良いと考える。
- ・教え込んだことわざから最終的に一つ選ばせ、それをポスター化させる。裏面にはなぜそれを選んだのかを英語で書かせる。この活動は、廊下などの掲示を通して生徒のやる気を生み出している。
- ・英語のことわざカルタをやるくらいしか扱っていない。
- ・英語のことわざを通して英語の感覚や文化を教えることが出来るのではないか。

などフロアーの意見を頂戴した。ポスターづくりやことわざを選んだ理由を書かせるプロジェクト活動は生徒の感情を大切にしており、「人間中心の教育」につながる。選んだ理由は、まさにその生徒の自己表出である。英語のことわざは、言ってみれば昔人の知恵である。そうした知恵を自分のものとするには意味があるだろう。そこに文化背景や英語特有の考え方があっても知れない。そうした言語文化を教えていくことは、言語教育の大きな目的の一つでもある。（中井）

「勉強会」今後の予定

■ 第 32 回勉強会「英語の教え方教室」

平成 26 年 10 月 18 日（土）14:00 ~ 17:00

「私の授業実践—英語を通じて世界を知ることをめざして」

滋賀県立米原高等学校 堀尾 美央 教諭



■ 第 33 回勉強会「英語の教え方教室」

平成 26 年 11 月 22 日（土）14:00 ~ 17:00

「エクセター大学での研修で学んだこと」

奈良県立高取国際高等学校 松川 慈 教諭

詳細は <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/course>



編集後記

今夏も教員免許状更新講習 1・2 を行う。50 名を超える参加申し込みがあり、現在キャンセル待ちだそうだ。講習担当教員、気を引き締めてがんばりたいと思う。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp